

大腸癌-47

がん化学療法後に増悪した  
HER2陽性の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌  
パージェタ+ハーセプチン併用療法 患者プロトコール

催吐リスク
最小度
放射線併用なし

投与プロトコール 1コース 21日間 制限なし 《開始時基準 PS:0~1 年齢:20歳以上》		投与量	投与日	投与時間	備考	
ルートKeep	生食 500mL	—	Day1	—		
①	初回	パージェタ:840mg/body	mg	Day1		60分
	生食 250mL					
①	2回目以降	パージェタ:420mg/body	mg	Day1		下記参照*
	生食 250mL					
経過観察	下記参照					
②	初回	ハーセプチン:8mg/kg	mg	Day1		90分
	60mg/Vを注射用水3mL、150mg/Vを注射用水7.2mLで溶解(溶解液濃度21mg/mL)し、必要量を下記に混注					
生食 250mL						
②	2回目以降	ハーセプチン:6mg/kg	mg	Day1		下記参照*
	60mg/Vを注射用水3mL、150mg/Vを注射用水7.2mLで溶解(溶解液濃度21mg/mL)し、必要量を下記に混注					
生食 250mL						
経過観察	下記参照					
<p>* パージェタ・ハーセプチンは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分まで短縮できる。</p> <p>◆経過観察: パージェタ及びハーセプチン投与終了後、Infusion reactionの発現がないことを確認してから、次の薬剤を投与する。初回は30分の経過観察を行い、2回目以降は様子を見て短縮可能。</p> <p>◆ローディングドーズに関する規定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パージェタは前回投与からの投与間隔が6週間以上の場合、初回投与量で再投与を行う。</li> <li>・ハーセプチンは前回投与からの投与間隔が4週間を超えた場合、初回投与量で再投与を行う。</li> </ul> <p>(注意: 本レジメンでは、薬剤毎に前回投与日からの投与間隔日数によって初回投与量の再投与が規定されるため、前回投与日からの投与間隔日数に注意すること。)</p>						

佐賀大学医学部附属病院